

視 察 報 告 書

報告者氏名 小田桐 たかし ㊟

1 委員会名

教育福祉委員会

2 期 日

令和4年10月27日（木）～同28日（金）1泊2日

3 視察地及び調査事項

(1) 長崎県長崎市（1日目）

ア 長崎市子どもを守る条例について

(2) 長崎県大村市（2日目）

ア 大村市小中学生サポートルーム「c o n n e (コンネ)」
について

4 所感等

■長崎市

子どもを守る条例制定及び相談支援活動

いじめ被害者遺族らが設立したNPO法人のアンケート調査では、「学校、教育委員会の説明や報告はあなたにとって納得できたか?」との質問に対して「納得できない」とする解答は89.8%となった。このことから、いじめに関しては、生涯の癒えない傷となる深刻な人権侵害であると同時に、被害者・加害者という単純な相反関係だけではなく、学校や教育委員会の対応の未熟さや閉鎖性が本市も含め大きな課題となっている。

そのもとで、三重県大津市の事案をキッカケに、長崎市で制度策定をスタートさせたことは、地方政治の場において重要ではある。同時に、庁内及び教育の組織的、市民感情的に、そして何より子どもの心情的に希求された制度であったかどうか、

より重要であると考える。

実際、長崎市における相談支援体制は、相談件数や相談対応の範囲を考慮すれば、教育委員会的にも、市長部局医的にも十分満たされているとはいえず、専門性を活かした課題把握、横断的課題の共有、専門性の確立・継承にも課題があることが理解できた。

長崎市を事例に本市でも、安易に警察による介入や捜査権という権力乱用を学校現場に強いることはあってはならない。同時に、

- ①単純な加害者探しに狭めることなく、子どもの人権をなによりも尊重し、各事案の課題や経緯を追究する立場を横断的に確立すること。
- ②第一報を受ける相談支援体制は大幅に拡充し、職員体制は、教員にとどめず、市常勤職員の心理士や社会福祉士、保健師、児童福祉司等専門員を配置させ、広く社会的に課題の共有を図ること。
- ③深刻化する教員不足、教員の長時間過密労働の会員を図りつつ、人権研修を非常勤職員にも徹底すること。
- ④調査等への協力義務の規定を明確にし、県職員でもある市立学校現場職員には、事故調査報告書の提出義務化や服務規程の徹底を図ること。
- ⑤いじめ重大事案等を調査する委員について、社会的地位を確立し、膨大な時間を費やす調査権の行使を保障すること。
- ⑥被害者の人権回復を最優先するとともに、加害者の人格形成に対する寄り添い指導の継続を明確に打ち出し、学校任せ、家庭任せにせず、地域社会全体で理解を深める施策展開を図ることが必要と考える。

■大村市

小中学生サポートルーム「conne」

引きこもり等の児童生徒の支援として、家から少しでも外に出るきっかけづくりの場として「conne」と、学校復帰までに必要な体力や気力等を培う「あおば教室」を学校運営と一体

で取り組まれていることは、児童生徒の気持ちや体力に即したよりきめ細やかな対応の一つと考える。また室内のレイアウトや雰囲気、装飾など児童生徒に寄り添う姿勢がよく表現されていた。

同時に、大村市も本市も、様々な困難を抱えている児童生徒に対し、教員の不足・超過密長時間労働の課題解消だけで解決できる状況にはないことにも注視する必要がある。

大村市内での学校規模は、130人前後から1000人を超える小学校まであり、本市同様、超過大規模校等適正規模・適正配置に課題を残している。そのため、学校と地域社会の関係構築の難しさや、学校規模による課題（人間関係の希薄さ、きめ細やかな指導や寄り添いの困難さ等）など配慮すべき課題が多くあり、受け皿作りだけでは課題の解決が難しいと考える。

また、「conne(コンネ)」や「あおば教室」の職員体制も教育委員会だけではなく、市長部局から専門職及び一般事務の配置があることで、個別具体的な課題を社会的視点でとらえ、支える様々な制度に結びつけることができるのではないかと考える。

□県立・市立図書館及び郷土資料センターの統合「ミライON図書館」

職員や蔵書は県立・市立と内部的な区別されているものの、利用者に区別が故の利便性の悪化がないように工夫されている。

同時に、船を模写する設計等が随所にちりばめられ、地域の文化や芸術、信仰心などにも配慮された内容となっている。

本市では、今年12月、地域図書館が児童館と一体型で新設されることから、「ミライON」の取り組みは大変参考になった。

本市でのウリは、「児童館併設」や「Café併設」となる一方、「ミライON」は若者の芸術的センスやQOL（生活の質）を刺激する「場」とあると同時に、学生・生徒の自習の場が広く確保され、地域文化の発信の場となっており、今後の運営や運営方針などにも注視し、学ぶべき点が多いと考える。